

新潟県

公民館月報

昭和54年12月号

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(0252)24-6073】【振替新潟4094】

発行人 会長 石井耕一
編集人 事務局員 本田 清

【定価】1部 70円 年共 840円



後面(うしろめん)

「一念他生無量業苦仏の誓い有難や、浅閑しや我ながらたまたま婆へ生れ来て、人をいづつわる事をのみ憂きわざとする畜生の……」

哀調を帯びた三味線ののって地かたの唄が陰に沈む。舞台には竹藪と風にそよぐ尾花を配り、白蔵主と狐の一人二役早替りの「後面」の踊りである。白装束に黒の腰布をまとい、正面は鉦を打つ出家であり、うしろ姿は妖しくも美しい白狐の面を後頭部につけ細い杓を持つ狐の役となる。加茂出身の歌舞伎女形岩井かほ世が故郷へ伝え遺したといわれる変化踊である。

かほ世は天保の改革による役者江戸払いに会い加茂へ帰った。帰郷後は岩井桑之助と一座を組み、北は松前から南は美濃大垣に至る各地を巡業するかわら、加茂芸妓に芸事を仕込んだ。加茂花柳男はかほ世の芸風を伝え、越後一の芸達者と謳われたという。

安政四年(一八五七)天王寺屋かほ世は六十五才を以て没し、法名釈了恵、加茂市上町広円寺に眠っている。かつて江戸歌舞伎で喝采を博した後面も、今や知る人もなく忘れ去られ、わずかに命脈を残して来た加茂でも後継者難のためまさに杜絶えようとしている。全国でも類のない珍しいこの踊りを後世に残すために加茂文化協会の手で再現が進められている。

文 文化財審議委員 古川信三
絵 加茂文化協会員 本間 正

第二回公民館研究集会・岐阜・終わる



管理

各分科会ごとに開会 (上)
(左) は全体会の盛況

経営・事業に的

千八百名が岐阜市で学習

さる十一月十三日・十四日の両日、第二回全国公民館研究集会が岐阜県岐阜市で開かれた。北海道から沖縄までの参加者一千八百余名、本県からの参加はわずかに六名にとどまった。この大会の成果は十一月二十八日東京で開かれる第二十八回全国公民館振興大会に反映される。

社教法改正で意見交換

従来の総会大会とちがい、第一表、発表者に対する質疑、参加者目目からたまたまにそれぞれ目的の相長による討議、助言者による分科会へと目を通す。開会式は各言とすみ、午後五時ころ司会者分科会ごとにおこなわれ、全公連によるまとめの第二日を終了し、会長メッセージが読み上げられた。本県相模市中央公民館事務局長の渡辺助天氏は、社会教育法改正に

管理・経営部会分科会、事業活動部会分科会、あわせて十四要聞号(十一月)記載のような発分科会では、それぞれ二、三つの表として注目された。ブロック選出調発表者による発

ユニークなセレモニー

第二百日は、公民館集会セレモニー「地元職匠による『模範船』」と銘うち、会場を岐阜市民会が主催され、地元の伝統文化をか

船にうつし各分科会助言者を中心にしての全体会が実施された。総会後に、NHK解説委員主任山室合司氏が公正委員(全公連常任委員)による「国際情勢の見方」(理事)、一千八百名の参加者の発と相した記念講演を聞いて散会し、言者をはじめ、地元女性公民館職員らによるインタビュアーが動員されるなど、活発な意見が交換された。

昼食・休憩の時間を利用して

短歌紀行 (2)

日ソ沿岸市長会議

石井耕一

イルクーツク

千古の水滸えパイカル醜がなり名も知らぬ鳥あまふひかいパイカルの博物館長は何とか女史その学識と湖の深さこそエレベーターと廊下の床に設あれど費用上の支障はなきか鎌倉のおばさんたちに挨拶は朝はお早う夜は今晚は

山口屋多くは別荘暮らしとかアパート住いの都市の住民白樺の林の中に表道あり車道四車線路用言又トトル待つ間なくバスは来るなりマイカルの必要なく安全な街會員最後の夜なりわが方のお国日曜も次々とびだしお別れのクラス重ねて謡曲をうたいだせしは天武市長

レニングラード

レーン像幸とどるなりスターリンはレニングラードにも見ることあたわず

独軍の包囲九日堪え抜きし戦士の勇花絶ゆるなし四百至三百万点の美術品エルミタージュを汗よきまわる日本語で案内せしは十五カ国語話す博物館の如き人とか寝台車の車掌は婦人スポンはき出し行きし本在市助役

モスクワ

婦人ながらロシア共和国の副首相外務大臣と号せしわが国の資源と貴国の技術とで互いの利益と熱弁繰く柏崎今井市長の賞問は終始無発の安全座のみ

あしがき

トントキクラブ (3)

樋口弘雄

昭和三年代は、集団学習からスタート学習へ、そしてサークル活動、移行して、沢山のサークルができた。

「新しい農業」「田植機」「外国の農業」等々視聴覚教材を利用した集会学習を意欲的に開いた。一カ年が過ぎた。何の反省もなかった。

機械化されてくる農家の余剰労働をどう収入に結びつけるか。これからの農村はその大半が兼業になる。その兼業は完全兼業(その当時私によく使った言葉)でなければならぬ。

この力説も、農業高校、普及所、農協からは嫌われた。そしてまた一年、このことに関しては効るが三十年を過ぎると生活費が農業所得を下廻りてははじ、機械化も進んで来た。

昭和三十三年社会教育主事講習会、表日本農業地帯の変わり方に刺激され、学芸大四十日

困期には、土壌の臨時種として、土方に出ており、しかも田の一角を返って動いていた。

「君は体が丈夫をないから、表具職を覚えたらどうだろうか」「一町足らずの田なり、思いついて委託し出さなければ、就職はおれが世話しよう」

農家の感でも、お母もの立場でミツチリやたら生活がきつ

その頃の農家の若い人達は、農

と安定する。個々の相談にのった。昭和四十年の声をきく頃、農村の機械化は急激に進んで来た。農家の不業生の七〇%が就職する状況になった。私の説に共鳴して来て、それぞれの道に進んで行くには十分に満たない。

大型トラックが走り、四条植えの作業で終る時代がきて、その青汁は、それ程不安を感じてな

公民館は、農業の立場から見れば農家の側であり、非常門家である。なぜ専門家の協力を得ながら進める土をしなければならぬか。考えてみればやはり私は、トントキ館長であった。

公民館では、このしの通常総会の決定に基づき、総版となっていた「公民館の歌」レコードの複製版を企画していたが、この複製版制作との協議が成立し、近々製作にとりかかることになった。

今回のは初カセットテープの予定で計画をすすめてきたが、レコードに比べ、カセットテープは音程が早いこと、曲探しに巻戻しの手数がかり、時間的

「公民館の歌」レコード

公民館は、生きています。その頃の学級生は、町の中堅となっていた。商工会の会合でも、保育園の母の会でも、小中高のPTAでも、かつての若い仲間会

自称「総合社会教育の実践者」は、これら若い人達の数十組の仲人を仰せつかった。その大半は、既にできている二人の形だけの仲人である。その中の幾組か、毎

公民館の歌、唄、穴井正信、同、カラオケ、公民館宣頭、唄、北島三郎、葵の子

式典音楽など11曲

次回から元松浦村公民館主事(新築田中浦分館)大沼俊爾氏が執筆します。ご期待ください。

忙しいのは纏まはかりではないわけですが、ピンチヒッターのいない二人だけの事務局のみなしき、師走の今日日は、なかなかお届けすることが出来な

休養時の音楽 「六段の調」 中田博之、開会、閉式時の音楽、ファンファーレ、2種、鎮光、クラウン・オーケストラ

公民館の歌、唄、穴井正信、同、カラオケ、公民館宣頭、唄、北島三郎、葵の子

十一月中に全国大会が二つも重なり、岐阜へ行ったり、東京へ行ったり思ひつひまもない

実録記録のストック原稿も欠乏し、補充稿も間に合わないままに月日はかりが先です。す。

NCWプラスチック、休養時の音楽、クラウン・オーケストラ

公民館の歌、唄、穴井正信、同、カラオケ、公民館宣頭、唄、北島三郎、葵の子

あしがき

あしがき

あしがき

あしがき